

第5回がん対策部会（乳がん対策）の取りまとめ

議題1「部会委員の変更及び部会長の選任について」

岡崎副部長	承認する	全委員から承認をいただいたことから後藤委員を本部会の部長として選任いたします
九富委員	承認する	
黒藤委員	承認する	
後藤委員	—	
高橋委員	承認する	

議題2「(2) 乳がん超音波検査導入後の検診結果について」

1. 委員からの質問及びその回答

	質問	回答
後藤部長	精検受診率が、マンモのみと比べて、マンモ+エコーのほうが高いのは、エコーは40歳代の方が受けられるようであり、比較的若いほうが、乳がんに対する意識の高さからでしょうか？	より精密な検査で要精検となった方が積極的に精密検査を受診したことが可能性として考えられます。
	コロナ感染症の流行のため精検受診をする医療機関へ、なかなか足が運ばなかったのでしょうか？	陽性の判定を受けることへの不安から受診を躊躇ったり、自覚症状がなく緊急性を感じていない等、精密検査を受診されない理由には複合的なものがあると考えられますが、コロナによる受診控えも少なからずあったものと思われまます。
岡崎副部長	質問なし	
九富委員	質問なし	
黒藤委員	質問なし	
高橋委員	質問なし	

2. 委員からの意見

後藤部会長	<p>全体の精検受診率は、平成29、30年度と比べると数値は上回っているのですが良いと思われませんが、国の指標値は80%以上となっているようなので、まだ、対策が必要な方、受診されていないことが心配です。</p>	
岡崎副部会長	<p>40歳代の検診に超音波検査（u s）導入の意義は大きいと思います。なぜなら当初、u s 導入により要精検率が高率になるといわれながら高率にはならなかった。ただし、検診で検出された乳がん例が自覚症状有の“検診診断乳がん”と自覚症状無しの“検診発見乳がん”の区別はなされていないことは問題です。乳がん検診精検結果連絡票に自覚症状の有無の記載が必要です。</p>	<p>【札幌市の見解】 札幌市のがん検診は、自覚症状のない方を対象としてがんを早期発見と、早期治療による死亡率の減少を目指しております。自覚症状のある方には保険診療を案内しているところですので、申し訳ありませんが結果報告に自覚症状がある方の検診受診を前提とした記載を設けることは困難と考えています。</p>
九富委員	<p>意見なし</p>	
黒藤委員	<p>受診者に占める超音波検査受診者の割合が、令和元年度の約61%から令和2年度の約66%に向上したことは超音波併用検診が認知されてきていることを示しており、更なる啓発の充実が重要であるとする。</p> <p>令和元年度、令和2年度を通して要精検率が5%前後で推移しており、がん発見率等からみても適正に保たれているといえる。これらは研修会等にて、ガイドラインに従った検診を行う事により、要精検率や陽性反応適中度が適正に保たれ、検診精度が維持されることの重要性を伝えてきた成果の一つとする。今後も画像管理と検診精度の管理の重要性を伝え、更なる研修会の充実を図っていきたいと考えている。</p> <p>同時併用総合判定方式の超音波併用検診は、がん発見率、陽性反応適中度から見ても一定の効果があると推測される。</p> <p>身体に侵襲を伴う「組織診または穿刺細胞診」を受けた方の割合が現在の割合で妥当かどうか更なる検討が必要とする。</p> <p>精検受診率が国の指標値を下回っており、その要因について経過観察者の割合等も調査をし、改善に努めなくてはならないとする。特にマンモ単独の精検受診率が極端に低く、精検の受診勧奨の方法を調査し改善に努める必要がある。</p> <p>過去2年間の超音波検査を併用した検診の成績は概ね良好ではあるが、適正な侵襲的検査率の検討および精検受診率の改善に努める必要がある。現在の研修会は医師・診療放射線技師・臨床検査技師への画像診断・判定を中心とした内容であるが、今後は検診全体の精度管理を行っている保健師等への研修機会も必要とする。</p>	

<p>高橋委員</p>	<p>導入前に要精検率が上昇することを危惧していたが、それは杞憂におわっていきそうだというのはいいことかもしれない。</p> <p>マンモのみで発見されたがんとUS併用で発見されたがんの違いは重要である。画像の性状、年齢、STAGE、サブタイプ等詳しい結果の報告を強く望む。</p> <p>札幌市民の貴重な税金を投入して得られたこの2年のdataは大変重要であり、大切に扱う必要がある。J-STARTの件もあり、学会報告および論文文化に向けての具体的なタイムスケジュールを考えるべきである。具体的には令和4年第32回日本乳癌検診学会などの発表が可能か等、誰が第一著者でどの学会をターゲットにすべきか等は委員間で話し合うべきである。</p>	<p>【札幌市の見解】</p> <p>初年度に実施した超音波検査の結果については、黒蕨委員が日本乳癌検診学会で報告、また今年の同学会での報告も予定されていると伺っております。今後の論文文化も含めまして委員間での情報共有やご相談を進めていただければと思います。</p> <p>また、検査結果データについては、行政機関の事業であるため分析には限界がありますが、今後も引き続き集計をしていくことといたします。</p>
-------------	---	---